

名古屋城天守閣木造復元の検討について

現在の名古屋城天守閣は、再建から半世紀が経過し、コンクリートの劣化や設備の老朽化、耐震性の確保など様々な問題が顕在化しており、いずれかの時期には建て替えの必要があると考えています。（詳細については、下の「天守閣整備に対する課題」をご参照ください。）

名古屋市ではこの間、調査を行い、名古屋城天守閣の整備について検討を進めてきました。

天守閣については、「木造復元した方が良い」、「耐震改修した方が良い」などの意見がありますが、名古屋市内においては、市長が「世界にアピールできる千載一遇のチャンスである東京オリンピック・パラリンピックにあわせ2020年7月までに天守閣を木造復元する」という方針を示したことから、4年余りの中での迅速な整備が求められています。

また、名古屋城には金城温古録や昭和実測図など貴

重な記録資料が残っており、史実に忠実な復元が可能といわれています。

しかし、木造復元の際には、仕様の前提となる条件の確定が困難な工事であることなどから、名古屋市では、民間ノウハウを活用する「技術提案・交渉方式」を採用し、工期・工程・概算事業費などを明らかにするため、2020年7月までに天守閣を木造復元する提案を募集、優秀提案を選定しました。（優秀提案については、次ページの「民間業者からの技術提案」をご参照ください。）

そして、その提案内容の概算事業費に基づき、収支計画を試算しましたが、現段階で試算した収支計画では入場料については見直すものの、建設費や運営管理を含めた総事業費をすべて入場料収入で賄うこととしています。（詳細については、最終ページの「天守閣木造復元にかかるお金等について」をご参照ください。）

「名古屋城天守閣の整備」については、市民の皆様の理解を得ながら進めてまいります。

天守閣整備に対する課題

再建から56年が経過し、課題が発生しています

課題

1

コンクリートの劣化や設備の老朽化、石垣の変形などが進行している

課題

2

耐震性能が現行基準に合わず、耐震改修したとしても概ね40年の寿命とされている

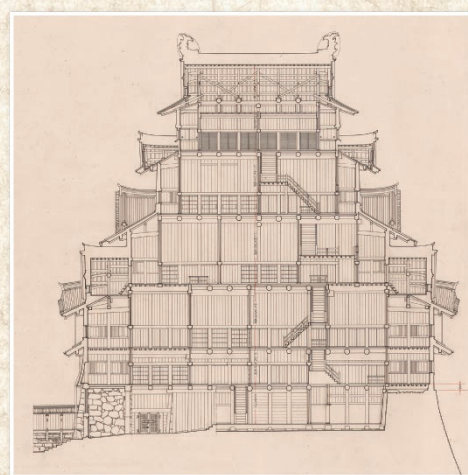
➡耐震診断の評価Ⅱ-2（本市耐震基準による）
震度6強程度の地震に対して、倒壊または崩壊する可能性が高い

ここが凄い！名古屋城

貴重な記録資料が多数残っています

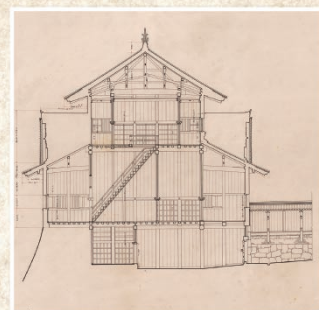
金城温古録

尾張藩士・奥村得義（かつよし）（1793～1862）とその養子・定（さだめ）（1836～1918）が編集した10編64巻におよぶ名古屋城の百科事典。この「金城温古録」を調べることによって、空襲で焼失した名古屋城の内部を知ることができます。



昭和実測図

昭和7年から27年にかけて作成された「天守閣をはじめ国宝建造物24棟」の実測図面が残っています。（大天守閣56枚・小天守閣15枚）



このような資料が多数残っているため、名古屋城は、史実に忠実な復元が可能といわれています。

民間業者からの技術提案

（平成28年4月時点の内容です）

POINT

- ① 史実に忠実な木造天守閣を復元
- ② 平成32年7月末に天守閣を復元
- ③ 実現性のある総事業費を提案

（建設費・設計費）

提案者	株式会社 竹中工務店
バリアフリー化	小型エレベーター設置を検討（地階～1階、1階～4階） （車いす利用可・4人乗り）
復元過程の公開方法	工事現場内見学施設（5階建て）
木材利用	原則、国産材 一部外材を使用
総事業費（税込み） （建設費・設計費）	石垣の整備手法等により 約474～約505億円
天守閣竣工時期	平成32（2020）年7月

東南側から本丸御殿の屋根越しの外観



大天守 5層二之間



大天守 3層階段

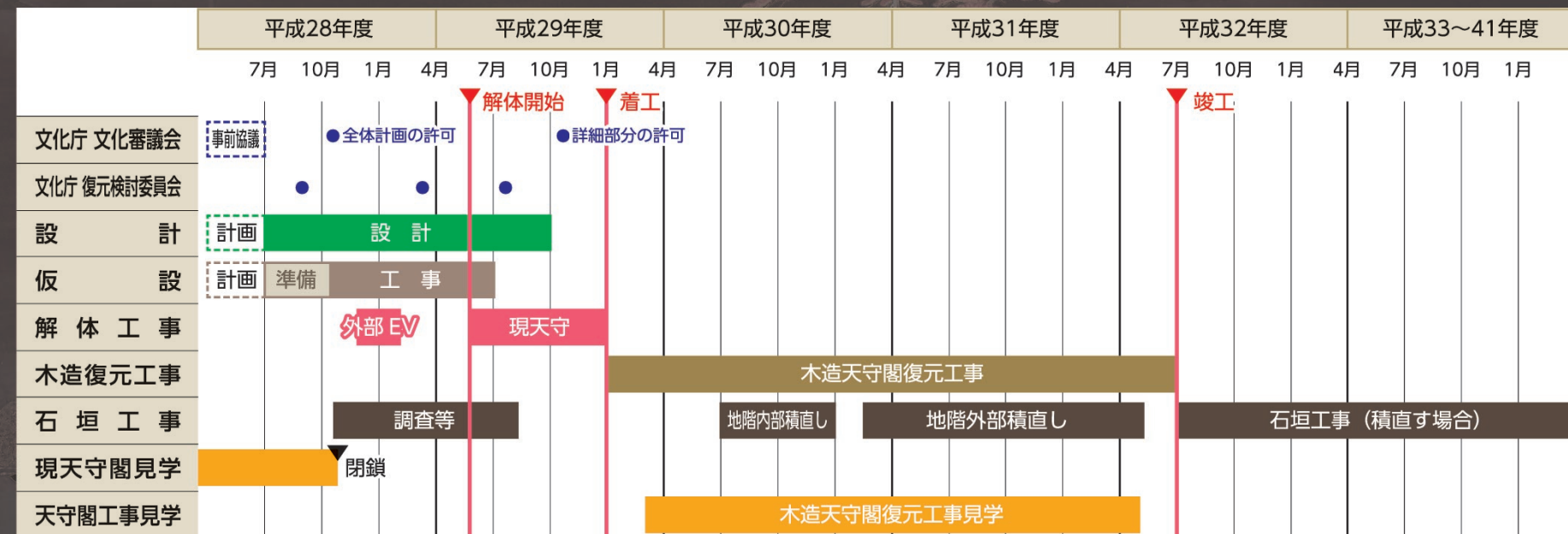


大天守 2層入側



小天守 1層入側

優先交渉権者 工程計画（株式会社 竹中工務店）

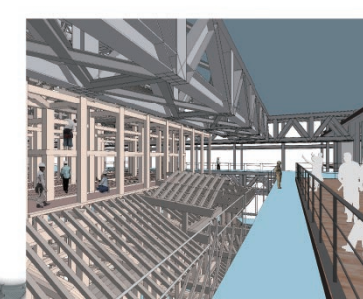
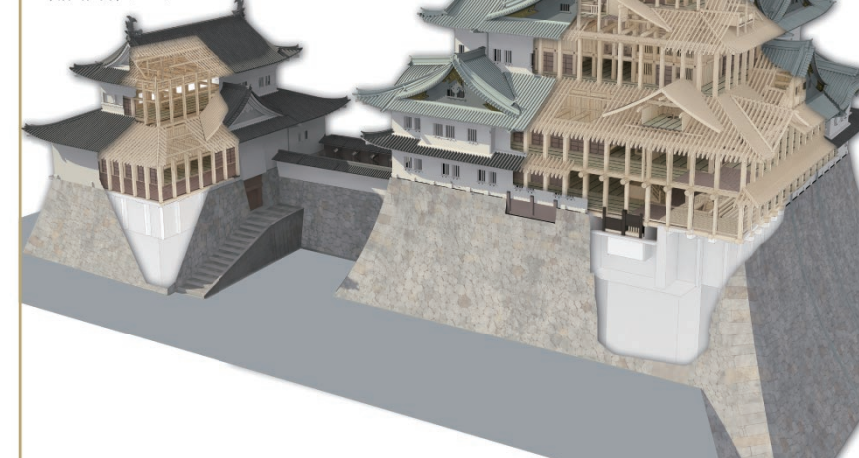


※本計画は平成28年4月時点のものです。今後の協議により計画が変更となる場合があります。

木造天守閣復元工事を目の当たりに見学できます

工事中の天守閣を囲う「素屋根」には、見学フロア、展望デッキ、体験コーナー等を設えます。

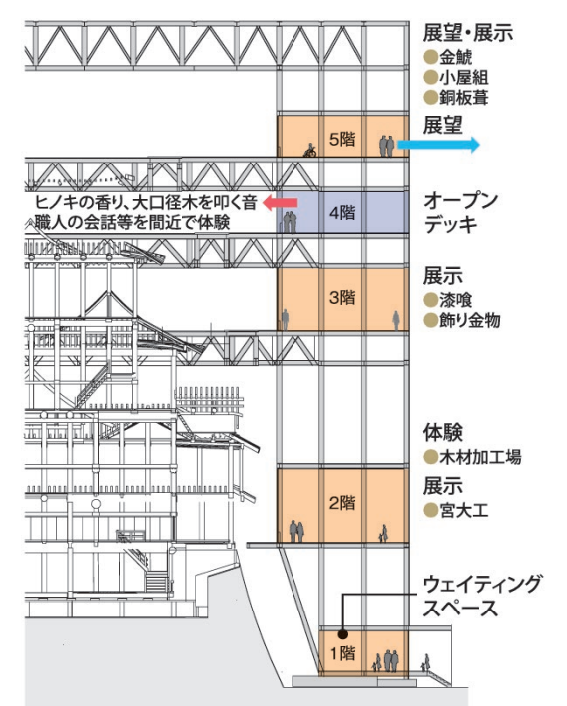
断面図解イメージ



4階オープンデッキ



3階展示室



※技術提案の詳細については、名古屋城ホームページ「トピックス」をご覧ください。（復元イメージCG動画有り）